



令和6年度学術委員会学術第2小委員会報告

「病院薬剤師の働き方・キャリア形成に関する研究」活動報告 (最終報告)

委員長

慶應義塾大学薬学部医薬品情報学講座（前宮城県立がんセンター薬剤部）

土屋 雅美 Masami TSUCHIYA

委員

北海道医療大学薬学部薬学教育推進講座

慶應義塾大学医学部病院薬剤学教室 / 慶應義塾大学病院薬剤部

笠師久美子 Kumiko KASASHI

河添 仁 Hitoshi KAWAZOE

国立国際医療研究センター病院薬剤部

富山大学附属病院薬剤部

鳥取大学医学部附属病院薬剤部

大橋 裕丈 Hirotake OHASHI

小笠原明美 Akemi OGASAWARA

三好由希子 Yukiko MIYOSHI

株式会社メデュアクト

流石 学 Manabu SASUGA（所属は令和6年度のもの）

研究テーマの背景

薬剤師の業態や地域における偏在が指摘されるなか、とりわけ病院薬剤師の人材確保は喫緊の課題となっている。新たな人材の確保に加えて、既存の薬剤師が長期にわたり安定して働き続けられる職場環境の整備や、個人のキャリア形成支援が重要視されている。

2023年3月に報告された薬剤師の偏在状況に関する調査¹⁾では、薬剤師の業態・地域偏在が明らかとなり、特に病院薬剤師の確保が喫緊の課題であると指摘されている。この課題解決には、病院薬剤師の人材確保だけでなく、離職者を減らし、継続した就労を可能にする環境整備やキャリア形成支援が不可欠である。一方、本邦における病院薬剤師の働き方やキャリア形成支援に関する実態やニーズを広く調査したものではなく、少数を対象にした研究結果や事例紹介が散見されるのみであった^{2~4)}。

こうした背景の下、日本病院薬剤師会令和6年度学術第2小委員会では、会員を対象とした質問紙調査を通じて、病院薬剤師の働き方やキャリア形成支援に関する包括的なデータを収集し、今後の議論や施策検討に資する基礎資料を得ることを目的に活動を行った。

活動目的

日本病院薬剤師会学術第2小委員会の目的は、病院薬剤師の働き方やキャリア形成に関する現状と支援ニーズを明らかにすることである。加えて、得られた知見を学術的・社会的に発信することにより、病院薬剤師の職能発展と職場環境改善に向けた議論を促進することを意図

した。直接的な成果として、病院薬剤師の働き方やキャリア形成支援に関する実態およびニーズのエビデンスを充実させること、並びに働き方・キャリア支援に関する好事例の収集と周知・発信の機会を増やすことを、また、間接的な社会的成果としては、病院薬剤師の働き方やキャリア形成支援に関する環境の改善、離職率の低下、人材確保の促進を想定した。

令和5～6年度の活動内容の概要

令和5年度は、日本病院薬剤師会会員を対象とした質問紙調査実施に向けた調査票の作成を行った（表1）。質問項目としては回答者背景や所属施設の情報、認定・専門資格の有無、学位の有無、雇用形態や職場の福利厚生制度、キャリア支援の有無、働き方に関する満足度、キャリアに関する満足度などについて、様々な角度から「働き方」と「キャリア形成」を問うものとした。また、先行研究などの論文・文献を収集、委員内で共有するとともに、病院薬剤部における産休・育休取得支援や、時短勤務制度の運用など、好事例を共有した。第7回Future Pharmacist Forumでは活動の概要について報告を行った。

令和6年度は、前年度に作成した質問紙調査を日本病院薬剤師会会員に対して実施し、得られた結果を解析した。また、第8回Future Pharmacist Forumでの成果報告や、論文化による国際的な発信も視野に入れて活動を展開した。

表1 質問紙調査項目

- 0 研究参加への同意
- 1 回答者背景
- 1.1 あなたの年齢を教えてください。
 - 1.2 あなたの性別を教えてください。
 - 1.3 あなたの家族構成を教えてください。
 - 1.4 あなたの主となる勤務先を教えてください。兼業・兼務をしている場合は、勤務時間が最も長いものを選択してください。
 - 1.5 (②～⑤の病院と回答した方へ) 勤務先の病床規模・区分を教えてください。
 - 1.6 あなたの勤務先の立地する都道府県を教えてください。
 - 1.7 あなたの役職を教えてください。
 - 1.8 あなたの薬剤師歴(免許取得後の年数)を教えてください。
 - 1.9 あなたの現在の職場での勤務年数を教えてください。
 - 1.10 認定・専門資格の有無を教えてください。
 - 1.11 1.10で「あり」の場合、その内容を教えてください(複数回答可能)。
 - 1.12 学位(博士号)の有無を教えてください。
 - 1.13 あなたが有しているその他の資格があれば教えてください(医療関係以外など)。
 - 1.14 あなたがこれまでに受けた教育研修プログラムを教えてください。
- 2 働き方に関する項目
- *特に記載がない場合、2023年度のことでお答えください。
- 2.1 あなたの雇用形態を教えてください。
 - 2.2 あなたの勤務時間を教えてください。
 - 2.3 あなたの勤務形態を教えてください(複数選択可)。
 - 2.4 あなたの2023年(1～12月)のおおよその年間収入額(手当等を含む総支給金額。副収入を除く)を教えてください。
 - 2.5 あなたの平均的な残業時間(実働…額面に含まれない残業時間も含む)を教えてください。
 - 2.6 あなたの1ヵ月当たりの休日の日数を教えてください(有給休暇、夜勤や当直の振替などすべて含む)。
 - 2.7 2.5で答えた休日のうち、実際には仕事をしている日数を教えてください(所属施設の仕事、社会活動など)。
 - 2.8 あなたの年休取得率を教えてください(例:年間20日のうち12日取得の場合、60%)
 - 2.9 あなたの転職回数を教えてください。
 - 2.10 あなたの職場で利用可能な制度があれば、教えてください(複数選択可)。
 - 2.11 あなたの現在の主たる職場における働き方に関する満足度を教えてください。
- 3 キャリア形成に関する項目
- 3.1 あなた自身の5年後の姿を思い描くことができますか?
 - 3.2 あなたが目指すキャリアゴールについて、以下のなかで自分の考えと近いものを教えてください(複数選択可)。
 - 3.3 あなたの現在のキャリアに対する満足度について教えてください。
 - 3.4 あなたの現在の職場におけるキャリア形成支援(大学院や資格取得、その他のキャリアアップに対する支援制度)について教えてください(複数選択可)。
 - 3.5 あなたのキャリア形成において、障壁になっているものがあれば教えてください(複数選択可)。
 - 3.6 あなたが必要と感じるキャリア形成支援制度があれば教えてください(複数選択可)。
 - 3.7 職場による働き方・キャリア形成支援に対し、あなたが不足していると感じる点や、職場への希望があればご記載ください。
 - 3.8 学会・職能団体による働き方・キャリア形成支援に対し、あなたが不足していると感じる点や、学会・職能団体への希望があればご記載ください。

病院薬剤師の働き方・キャリアに関する 質問紙調査

1. 調査方法

2024年6月14日～7月31日の期間、日本病院薬剤師会会員を対象として、Googleフォームを用いた無記名自記式オンライン質問紙調査を実施した。調査の告知は

日本病院薬剤師会ウェブサイト、日本病院薬剤師会雑誌の誌上および日本病院薬剤師会メールニュース上で行った。質問紙調査内容には、勤務形態、勤務時間、給与、福利厚生、資格取得状況、キャリア支援制度の有無、キャリア形成の満足度および障壁、支援ニーズなど多岐にわたる項目を含めた。キャリア満足度評価は7段階リッカート尺度で行い、キャリアの満足度に関する設問の内

的一貫性についてはクロンバックの α 係数で評価し、 $\alpha = 0.88-0.90$ であった。

統計解析について、各設問はカテゴリ変数として収集されており、性別、職種、施設種別、勤務形態などのカテゴリ間の関連について、 χ^2 検定または期待度数が5未満の場合にはFisherの正確確率検定を用いた。有意水準は $p < 0.05$ と設定した。解析にはSAS version 9.4 (SAS Institute Inc, Cary, North Carolina, USA)を使用した。

本調査は日本病院薬剤師会研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号2024-01）。

2. 結果

(1) 回答者背景

調査の有効回答数は710件（回答率1.5%）であった。
表2に回答者背景を示す。回答者の属性として、性別は

男性が52.2%、女性が47.5%、年齢分布は20～30代が45%、40～50代が52%であった。薬剤師歴の中央値は18年、勤務年数の中央値は11年であり、博士号取得率は9.7%であった。勤務先の病床数は100～499床が約58%を占め、役職は一般職から管理職まで幅広く分布した。認定・専門資格保有者は約7割に及び、日病薬病院薬学認定薬剤師や医療薬学専門薬剤師などの認定資格を有している回答者が多かった（表3）。これまでに受講したことがある教育研修プログラムでは、新人研修と実務実習関連がそれぞれ約半数、臨床研究関連、リーダーシップ、マネジメント、人事評価などの回答が認められた。一方で、教育研修プログラムを受講したことがないという回答が約2割であった。

雇用形態では正職員、フルタイム雇用が大多数を占め

表2 回答者背景（n=710）

		n	[%]
性別	男性	371	(52.2%)
	女性	337	(47.5%)
	答えたくない	2	(0.3%)
年齢	20代	73	(10.3%)
	30代	249	(35.1%)
	40代	234	(32.9%)
	50代	134	(18.9%)
	60代	18	(2.5%)
	答えたくない	2	(0.3%)
家族構成	独身	195	(27.5%)
	パートナーがいる	93	(13.1%)
	パートナーと子供がいる	395	(55.6%)
	子供がいる	16	(2.3%)
	答えたくない	11	(1.5%)
勤務先	診療所（無床～19床以下）	8	(1.1%)
	一般病院	132	(18.6%)
	総合病院（100床以上、診療科を5つ以上有する）	392	(55.2%)
	専門病院（がんセンター、循環器病センターなど）	49	(6.9%)
	大学病院（薬剤師として勤務）	109	(15.4%)
	大学（教員として勤務）	13	(1.8%)
	薬局	3	(0.4%)
	休職・休業中	2	(0.3%)
	その他	2	(0.3%)
病床数 (n=688)	99床未満	49	(7.1%)
	100～499床	401	(58.3%)
	500床以上	238	(34.6%)
役職	レジデント	2	(0.3%)
	なし（薬剤師）	306	(43.1%)
	主任、係長、助教かそれと同等	192	(27.0%)
	副部（科）長、准教授かそれと同等	70	(9.9%)
	部（科）長、教授かそれと同等	132	(18.6%)
	その他	8	(1.1%)
薬剤師歴（免許取得後の満年数）（中央値、四分位範囲）[年]		18.0	(1.0-25.0)
現在の職場での勤務年数（中央値、四分位範囲）[年]		11.0	(3.0-16.0)
認定・専門資格	あり	492	(69.3%)
	なし	218	(30.7%)
学位（博士号）	あり	69	(9.7%)

表2 回答者背景 (n=710) (続き)

		n	[%]
学位 (博士号)	現在博士課程在籍中	25	(3.5%)
	なし	616	(86.8%)
これまでに受けた教育研修プログラム (複数回答可)	新人薬剤師研修	362	(51.0%)
	実務実習に関する研修 (ワークショップなど)	328	(46.2%)
	臨床研究の研修	181	(25.5%)
	リーダーシップ研修	182	(25.6%)
	マネジメント研修	182	(25.6%)
	人事評価の研修	109	(15.4%)
	管理職向けの研修	150	(21.1%)
	経営管理の研修	33	(4.6%)
	受けたことはない	141	(19.9%)
	その他	19	(2.7%)
雇用形態	正職員	670	(94.4%)
	任期付き職員	16	(2.2%)
	契約職員	3	(0.4%)
	非常勤職員	7	(1.0%)
	パート・アルバイト	12	(1.7%)
	その他 (無職, 再雇用)	2	(0.3%)
勤務時間	フルタイム	666	(93.8%)
	時短勤務	43	(6.1%)
	その他 (無職)	1	(0.1%)
勤務形態 (複数回答可)	日勤	707	(99.9%)
	夜勤	125	(17.7%)
	当直	202	(28.7%)
	その他 (オンコール, 半日出勤, 裁量労働制など)	10	(3.1%)
2023年の年収 (手当等を含む総支給金額, 副収入を除く)	300万円未満	33	(4.6%)
	300万円以上 400万円未満	63	(8.9%)
	400万円以上 500万円未満	121	(17.0%)
	500万円以上 600万円未満	159	(22.4%)
	600万円以上 800万円未満	200	(28.2%)
	800万円以上 1,000万円未満	96	(13.5%)
	1,000万円以上 1,500万円未満	19	(2.7%)
	1,500万円以上	0	(0%)
	答えたくない	19	(2.7%)
1ヵ月当たりの平均的残業時間 (中央値, 四分位範囲) [時間]		20.0	(10-30)
平均的な1ヵ月当たりの休日の日数 (中央値, 四分位範囲) [日]		9	(8-10)
上記のうち, 実際には仕事をしていた日数 (中央値, 四分位範囲) [日]		1	(2-23)
年休取得率 (中央値, 四分位範囲) [%]		50.0	(25.0-60.0)
転職回数	なし	374	(52.7%)
	1回	164	(23.1%)
	2回	77	(10.8%)
	3回以上	91	(12.8%)
	答えたくない	4	(0.6%)
職場で利用可能な制度 (複数回答可)	短時間勤務制度ありー利用しやすい	360	(50.7%)
	短時間勤務制度ありー利用しづらい	134	(18.9%)
	夜間・休日勤務等の免除制度ありー利用しやすい	232	(32.7%)
	夜間・休日勤務等の免除制度ありー利用しづらい	134	(18.9%)
	病気療養・休業・時短勤務制度ありー利用しやすい	353	(49.7%)
	病気療養・休業・時短勤務制度ありー利用しづらい	141	(19.9%)
	介護時短勤務制度・介護休業制度ありー利用しやすい	234	(33.0%)
	介護時短勤務制度・介護休業制度ありー利用しづらい	170	(23.9%)
	看護短時間勤務制度・看護休業制度ありー利用しやすい	202	(28.5%)
	看護短時間勤務制度・看護休業制度ありー利用しづらい	115	(16.2%)
	制度はないが, 業務内容への配慮がある (特定の業務免除など)	89	(12.5%)
	なし	26	(3.7%)
	わからない	85	(12.0%)
	その他	11	(1.5%)

表3 認定・専門資格（カッコ内は回答人数）

回答者が2名以上のもの		
日病薬病院薬学認定薬剤師（99）	外来がん治療認定薬剤師（11）	薬物療法指導薬剤師（4）
NST専門療法士（74）	心不全療養指導士（11）	薬物療法専門薬剤師（4）
抗菌化学療法認定薬剤師（64）	医薬品情報専門薬剤師（10）	HIV感染症認定薬剤師（3）
認定実務実習指導薬剤師（64）	周術期管理チーム薬剤師（10）	精神科専門薬剤師（3）
医療薬学専門薬剤師（60）	腎臓病薬物療法認定薬剤師（10）	精神科薬物療法認定薬剤師（3）
がん薬物療法認定薬剤師（45）	老年薬学認定薬剤師（9）	骨粗鬆症マネージャー（3）
感染制御認定薬剤師（42）	救急認定薬剤師（8）	腎臓病薬物療法専門薬剤師（2）
がん専門薬剤師（39）	小児薬物療法認定薬剤師（8）	医薬品安全性指導者（2）
糖尿病療養指導士（34）	妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師（8）	医薬品安全性専門薬剤師（2）
研修認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）（32）	がん薬物療法専門薬剤師（7）	循環器病予防療養指導士（2）
医療薬学指導薬剤師（31）	糖尿病認定薬剤師制度（7）	腎臓病薬物療法専門薬剤師（2）
緩和薬物療法認定薬剤師（30）	プライマリ・ケア認定薬剤師（6）	生涯学習指導薬剤師（2）
感染制御専門薬剤師（24）	緩和医療暫定指導薬剤師（6）	精神薬学会認定薬剤師（2）
スポーツファーマシスト（19）	腎臓病療養指導士（6）	日病薬認定指導薬剤師（2）
がん指導薬剤師（15）	臨床薬理学会認定CRC（6）	日本臨床薬理学会指導薬剤師（2）
外来がん治療専門薬剤師（13）	ICD（5）医療情報技師（5）	日本臨床薬理学会認定薬剤師（2）
漢方薬・生薬認定薬剤師（12）	医療薬学認定薬剤師（4）	
回答者が1名のもの		
ACLSプロバイダー	医療経営士2級	日本アカデミック・ディテリング
GCPエキスパート	核医学認定薬剤師	研究会 認定薬剤師
GCPパスポート	漢方薬・生薬専門薬剤師	日本救急医学会icls認定インストラクター
HIV感染症専門薬剤師	緩和医療専門薬剤師	日本中毒学会認定クリニカルトキシコロジスト
JPALSレベル6	吸入指導薬剤師	日本病院会医療安全管理者
Patient eXperience Expert	急性期ケア専門士	日本麻酔科学会周術期管理チーム認定薬剤師
PhDLSプロバイダー	災害医療認定薬剤師	日本臨床試験学会認定がん臨床研究専門職
アレルギー疾患療養指導師	災害時感染制御支援チームActive Member	日本臨床薬理学会認定CRC
ケアマネジャー	埼玉県病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師	日本老年薬学認定薬剤師
ゲノムメディカルリサーチコーディネーター	秋田県糖尿病療養指導士	日本褥瘡学会認定褥瘡薬剤師
腎臓病薬物療法認定薬剤師	障害者職業生活相談員	妊婦・授乳婦専門薬剤師
とやま糖尿病療養指導士	上級医療情報技師	認知症研修認定薬剤師
リウマチ財団登録薬剤師	生涯研修認定薬剤師	臨床疫学会臨床疫学認定専門家
リハビリテーション栄養指導士	東京糖尿病療養指導士	臨床薬理学会認定薬剤師
医薬品情報認定薬剤師	糖尿病薬物療法履修薬剤師	褥瘡・創傷専門薬剤師
医療安全管理者	日本MBTI協会MBTI認定ユーザー	特定できず

ていた。勤務形態では日勤に加え、夜勤を行っているという回答した人が17.7%，当直を行っているとする回答が28.7%であった。年収分布は600～800万円が最多であり、次いで500～600万円であった。労働環境では、平均残業時間の中央値は月20時間、有給休暇取得率は中央値で50%，平均的な休日日数は1ヵ月当たり9日、うち実際には仕事をしていたのは1日程度という結果であった。転職回数は0回が最も多かったものの、3回以上の転職経験を有する回答者も一定割合存在した。職場で利用可能な制度についての回答では、看護・介護のための短時間勤務や夜間・休日勤務などの免除制度がある

が、その利用しやすさに関しては回答者ごとに異なる状況・受け止めであった。自施設におけるこれらの制度について「わからない」との回答が12%であった。

(2) 働き方・キャリアに関する満足度

職場における働き方の満足度について図1に示す。ロールモデル、メンター制度や指導体制について、比較的満足度が低い傾向が認められた。表4にはキャリア関連の設問の回答状況を示した。自身の5年後の姿を想い描く、すなわち、短期的なビジョンが明確かどうかを問うた設問では、回答が分かれた。相談を必要としている回答者が2割、どうしたらよいか手探りの状況と回答し

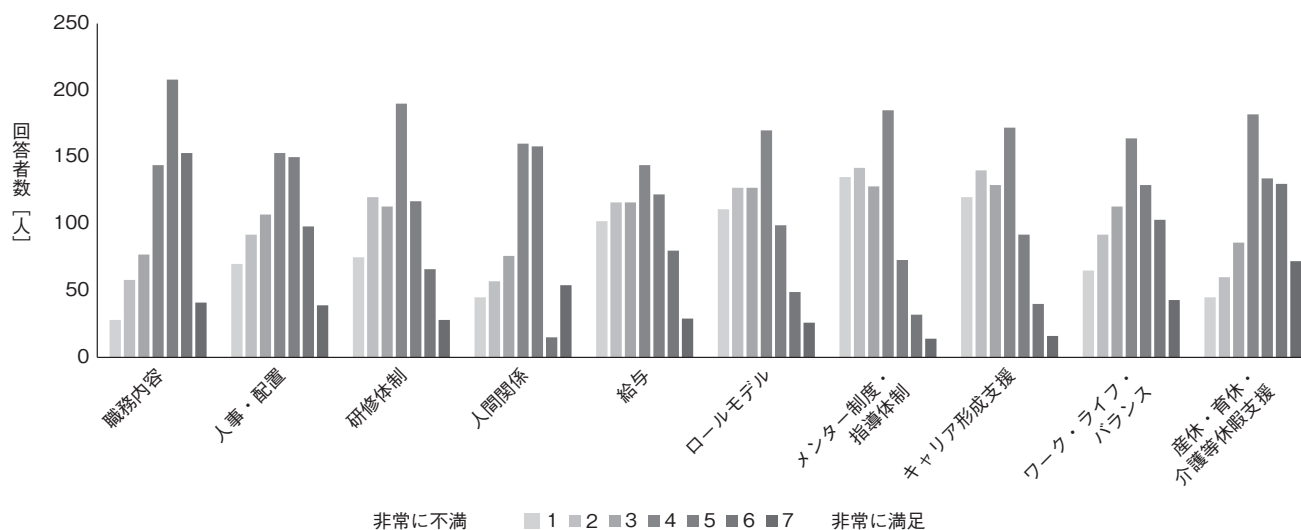


図1 職場における働き方に関する満足度

表4 キャリア形成・支援に関する設問

		n	[%]
自身の5年後の姿を思い描くことができるか	思い描いている通りの姿の実現に向けて邁進している	151	(29.7%)
	実現に向けて進めているが、アドバイスが欲しい／相談したい	194	(21.3%)
	思い描いているが、どうすればよいかわからない	141	(27.3%)
	できていない	211	(19.9%)
	その他	13	(1.8%)
現在の職場におけるキャリア形成支援（複数回答可）	金銭的援助あり	215	(30.3%)
	休暇取得支援制度あり	76	(10.7%)
	業務負担軽減などの仕組みあり	56	(7.9%)
	なし	345	(48.6%)
	わからない	112	(15.8%)
	その他*	15	(2.1%)
目指すキャリアゴールについて、自分の考えと近いもの（複数回答可）	マネジメント：病院の薬剤部門や他部門（安全管理、感染対策等）の管理運営や人材育成に携わる	270	(38.0%)
	専門：特定の領域や疾患に関する高度な知識や技術を身につける。病院内外での専門性や信頼性を高める	368	(51.8%)
	研究：臨床試験や基礎研究に従事する。新しい医療・治験や薬学の発展に貢献する	143	(20.1%)
	教育：薬学生や薬剤師の卒前卒後研修教育や指導に携わる。後進の育成に従事する	188	(26.5%)
	他業種：病院薬剤師以外の業種・業界に転職する	122	(17.2%)
	維持：現在のポジション、職務で定年まで勤め上げる	145	(20.4%)
	未定：キャリアゴールはまだ未設定である	114	(16.1%)
	その他	19	(2.7%)
キャリア形成における障壁（複数回答可）	時間	528	(74.4%)
	金銭	363	(51.1%)
	家族の理解・支援	129	(18.2%)
	職場の理解・支援	236	(33.2%)
	障壁はない	76	(10.7%)
	その他	35	(4.9%)
必要だと感じるキャリア形成支援制度（複数回答可）	金銭的援助	449	(63.2%)
	休暇取得支援制度	368	(51.8%)
	業務負担軽減などの仕組み	436	(61.4%)
	必要な支援はない	51	(7.2%)
	その他*	29	(4.1%)

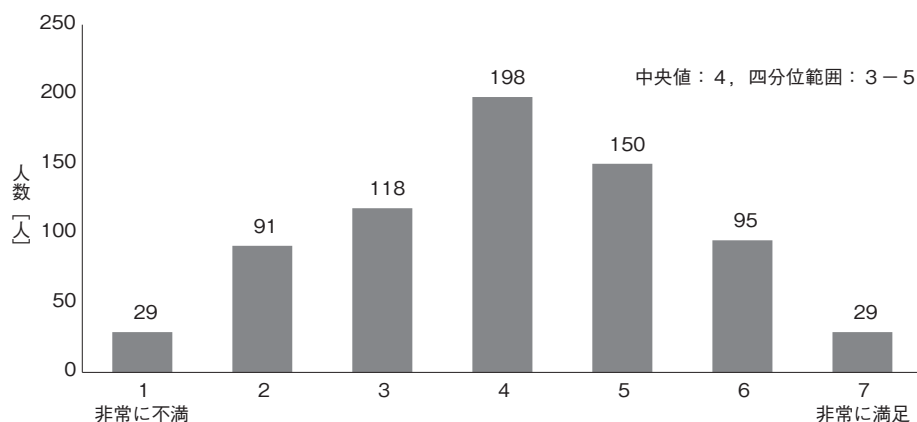


図2 現在のキャリアに対する満足度

たものが3割と、ビジョンがある程度明確ではあるものの、相談や支援に関するニーズが浮き彫りとなった。職場におけるキャリア支援について、「支援制度なし」が約半数で、「金銭的援助あり」が約3割、「休暇取得支援制度あり」が約1割であったと回答された。目指すキャリアゴールについては非常に多様な意見があり、専門性を高めたいという回答が約半数を占める一方、マネジメントや教育にゴールを設定しているとの回答も一定数認められた。キャリアの維持を目指すとする回答も全体の約2割であった。キャリア形成に関する障壁として最も多く回答されたのは時間であり、次いで金銭、職場の支援・理解の順であった。必要だと感じる支援制度もこの結果に準じており、金銭的援助、業務負担の軽減、休暇取得支援制度の順に多く回答があった。その他として、指導者や相談できる場、教育体制、経営者や管理者の理解など、制度面だけでなく、環境や理解者・支援者の存在にも一定のニーズがあることが示された。

図2に示す現在のキャリアに対する満足度は中央値4(四分位範囲：3－5)であった。

3. 考察

本活動は、病院薬剤師の働き方とキャリア支援に関する本邦初の大規模調査によって、その包括的な実態把握ができたことに意義がある。

回答者の大半が正規雇用、フルタイム勤務であり、日勤に加え夜勤やオンコール、休日勤務も伴っており、日本の病院薬剤師としては標準的な勤務形態であると考えられる。転職経験がない回答者が半数以上を占めることから、終身雇用制が色濃く反映された結果と推測された。年収分布についても、本邦の薬剤師平均年収^{5,6)}をおおむね反映していると考えられる。働き方について、短時間勤務や夜勤・当直の免除などの多様な働き方を支援する制度は多くの施設で利用可能である一方、「わからな

い」という回答が約1割存在し、施設におけるこれらの支援制度の周知が不足している可能性が示唆された。

働き方・キャリア形成支援に関する満足度調査の結果、自身のキャリア満足度は中程度である一方、ロールモデルやメンター制度、研修体制などに関する満足度のスコアは低い結果となった。本邦の病院薬剤師を対象に行われた先行研究においても、キャリアパスの満足度向上

のために優先的に改善するために教育研修体制やワークライフバランスの改善が必要とされており⁴⁾、本研究でも同様の課題が示された。加えて、病院薬剤師の目指すキャリアのゴールは様ではないことが本研究結果でも示され、多様なロールモデルの提示も、キャリア支援や働き方の満足度向上に寄与すると考えられる。キャリア形成における障壁も先行研究³⁾とおおむね一致している一方、キャリア支援制度について「知らない」という回答が15.8%と、上述した多様な働き方の支援制度と同様、認知度が低く十分利用されていない可能性が示唆された。

本研究は日本病院薬剤師会会員に対し、働き方やキャリア形成に関する包括的な調査を行った初めての研究であり、今後の施策や取り組みにおける基盤情報となると考えられる。一方で、調査手法や回答者属性に起因する幾つかの限界点がある。まず、日本病院薬剤師会の全会員数(調査時約47,500人)を分母とした場合の回答率は1.5%と低かったものの、年齢分布⁷⁾や学位取得率(9.0～15.3%)^{8,9)}などの回答者属性が日本の病院薬剤師の全国統計や先行研究とおおむね一致しており、結果の外挿性はある程度担保され则认为られる。ただし、性別比に関しては、本邦の統計(男性30～40%、女性60～70%)と比して男性が多く、女性薬剤師の実態が十分に反映されていない可能性があるため、結果の解釈には注意が必要である。次に、本調査の告知はウェブサイト、学会会誌、メールニュースのみで行われており、これらの媒体にアクセス可能であり、かつ働き方やキャリア形成に興味がある対象者がより多く回答した結果である可能性がある。日本の病院薬剤師に対する施策を行う場合、キャリア形成や働き方にあまり興味がない層にも利益をもたらすような施策を考える必要がある。

4. 結論

本学術小委員会では、日本病院薬剤師を対象とした質問紙調査を行い、働き方やキャリア形成に関するニーズや基礎情報を包括的に得ることができた。また本研究結果は原著論文としてBMJ Leader誌に掲載された¹⁰⁾。この調査を通じて得られた知見が、病院薬剤師の働きやすい環境整備や持続可能なキャリア形成の実現に資することを願う。

謝辞

本調査にご協力いただきました日本病院薬剤師会会員の皆様に心より御礼申し上げます。また、本小委員会の活動へのご指導並びにご助言を賜りました石澤啓介氏、齋藤秀之氏、松尾裕彰氏、島田美樹氏、並びに日本病院薬剤師会事務局の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 厚生労働省：第13回薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会（令和5年3月29日）「薬剤師偏在指標の算定について」。
<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/001082413.pdf>, 2025年5月12日参照
- 2) 前田 徹, 平松佑彩, 佐伯憲一, 水谷秀樹, 吉川昌江, 青柳裕, 矢野玲子, 高橋誠弥, 原崎周平, 日野知証：薬学部生のキャリアに対する意識調査－女子学生が考えるキャリアとは－, 薬学教育, **2**, 243-252 (2018).
- 3) 石塚仁保, 寺原史貴, 松木有莉, 櫻田啓介, 中村裕一, 鈴木千波, 小原秀治, 小原郁司：札幌厚生病院に勤務する薬剤師におけるキャリア形成と資格取得・研究活動に関するアンケートを用いた意識調査, 日本農村医学会雑誌, **69**, 48-56 (2020).
- 4) 土屋雅美, 河添 仁, 大西友美子, 島田美樹, 堀 里子：多様な進路・働き方における薬剤師のキャリアパスに対する意識調査, 医療薬学, **48**, 249-258 (2022).
- 5) 国税庁：令和4年分民間給与実態統計調査。
<https://www.nta.go.jp/publication/statistics/kokuzeicho/minkan/gaiyou/2022.htm>, 2025年5月12日参照
- 6) 厚生労働省：令和5年賃金構造基本統計調査。
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2023/index.html>, 2025年5月12日参照
- 7) 厚生労働省：令和4（2022）年医師・歯科医師・薬剤師統計。
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/22/dl/R04_toukeihyo.pdf, 2025年5月12日参照
- 8) K Watanabe, T Sakai, F Ohtsu : Analysis of factors affecting pharmacists' ability to identify and solve problems, *J Pharm Health Care Sci*, **9**, 31 (2023).
- 9) M Takigawa, Y Kondo, Y Kobayashi, A Iihoshi, M Kinoshita, Y Ishitsuka, M Masuda : Factors promoting research activities among Japanese pharmacists : a questionnaire survey, *Sci Rep*, **14**, 2890 (2024).
- 10) M Tsuchiya, H Kawazoe, H Ohashi, A Ogasawara, Y Miyoshi, M Sasuga, K Kasahi : Work styles and career development of hospital pharmacists in Japan : a cross-sectional questionnaire survey, *BMJ Leader* [Internet], 2025 July 31. doi : 10.1136/leader-2025-001260.

お知らせ

1日1回は日病薬のホームページを確認しよう

本会のホームページは広報・出版部が中心となり事務局と連携を図りながら企画運営しており、会員の皆様に必要となる重要な情報を逐次発信しております。

我々を取り巻く環境は、多くの情報をより早く正確に把握し理解する必要があります。そのためにはインターネット環境は、もはや必須のツールとなっています。

会員の皆様におかれましては、最低1日1回は本会のホームページを確認されるようお願い致します。なお、IDおよびパスワードは本誌の巻末に掲載しております。

広報・出版部